

## 2020年度C&C賞表彰式典開催

2020年11月30日、ANAインターコンチネンタルホテル東京（東京都港区）にて2020年度C&C賞表彰式典を執り行いました。2020年は、新型コロナウイルス感染症対策で、表彰式典会場での参加者数を制限する代わりに式典の様態をオンラインライブ配信し、会場で25名、オンライン視聴で66名にご出席をいただきました（写真1）。

式次第に従い、遠藤信博理事長による開会の挨拶があり、コロナ禍のなか、多くの皆様のご協力・ご支援でC&C賞の選考と表彰式典開催ができたことへの謝意と、C&C賞は1985年の表彰開始以来、2020年が36回目を迎え、過去71グループ115名にのぼる方々が受賞されたことなど、財団の主要な活動が紹介されました。次に、青山友紀審査委員長による選考経緯と受賞2グループの発表があり、グループAの受賞者として、「日本におけるインターネット構築ならびに発展への先導的かつ社会的な貢献」に対し、慶應義塾大学 村井純教授、また、グループBの受賞者として、「For Pioneering Contributions to Relational Database Systems（リレーショナルデータベースシステムに関わる先駆的・先導的貢献）」に対し、Michael Stonebraker（マイケル ストーンブレイカー）博士の業績が、それぞれ説明されました。遠藤理事長より村井教授に、表彰状、C&C賞賞牌と賞金が贈呈されました（写真2）。ストーンブレイカー博士は、新型コロナウイルス感染症による渡航制限により来日できなかったため、ご夫妻で賞牌を持つ写真を投



写真1 C&C賞表彰式典

影し、受賞を祝福しました（写真3）。

続いて、ご来賓の経済産業省商務情報政策局長の平井裕秀様よりご祝辞を賜り、日本も本格的なデジタルトランスフォーメーション（DX）の時代に入り、その基礎はインターネットを駆使したネットワークと先進的なデータベース技術であり、DXの進化は情報が縦横無尽にデータ連携することにより得られること、インターネットの父である村井教授と、データベースの先駆者であるストーンブレイカー博士が受賞者となられたことはDXの時代を象徴する出来事であること、デジタル技術は一般の方々の暮らしと仕事に広く実装していかなければならず、まさにDXによりコンピュータ&コミュニケーションが社会の隅々にまで広がる時代がやってくること、二人が



写真2 グループA受賞者の村井教授、遠藤理事長（右から）

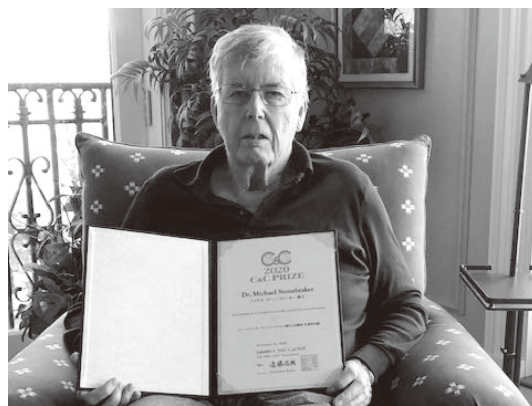


写真3 グループB受賞者のストーンブレイカー博士

築いた土台の上で更にイノベティブな取り組みが生まれるよう日本政府としても全力を尽くしていくとのお言葉がありました。

次に、電子情報通信学会会長の笹瀬巖様からは、村井教授は1984年に東京大学と慶應義塾大学、東京工業大学を電話回線を使って1,200bpsでつないで電子メールやニュースをやり取りできるJUNETを立ち上げ、そのきっかけは、東京工業大学と日吉の間を磁気テープを持って移動するよりデータで送る方が早いと気付いたことにあること、それにより、特定の人しか使えなかったコンピュータを広く使えるようにし、人と社会をつなげる役立つものにする画期的な転換となったと、JUNETの始まりとその意義を説明しました。ストーンブレイカー博士はデータベースマネジメントシステムのコンセプトを作り、技術実証して実用化、データをうまく蓄えて使えるようにしたこと、そして計算する道具のコンピュータ、データを流す通信とそろったことで、大量のさまざまなデータを保管できるようになり、今では当たり前のようにさまざまなことができるようになったことは画期的であると語られました。今のコロナ感染下で、動画で授業や会議や会話できるのは村井教授のおかげであること、データ主導社会が来るのは間違いなく、コロナにより必要に迫られてスピードアップし、ニューノーマルに向けて私たちは新しい時代、インターネットの先を作る必要があると締めくくりました。

次に、情報処理学会会長の江村克己様からは、コロナ禍でICTの重要性が認識され、情報処理学会はデータ駆動社会を支える情報処理基盤をセキュリティとプライバシー保護を担保しながらトータルシステムとして実現することに取り組むことが重要であり、インターネットに関しては、情報・エネルギー・モビリティを統合したインターネットを推進し健全な発展に寄与すること、データベースに関してはコンテンツ指向のデータ管理の研究を進め、社会の発展に寄与すると述べられました。受賞者には、技術の発展のみならず、人材の育成、技術の社会への展開への指導をお願いしたいと語られました。

受賞記念講演では、村井純教授からは、「インターネット」と題して、インターネット技術の流れを俯瞰しながら、インターネットに関わる友人との関係を交え、UNIX OS、ARPANET、インターネットの原理と物理モデル、インターネットのトポロジー、プロトコルアーキテクチャ、標準化、政策について、その時々のエピソードを交えて話をされました。インターネット上で標準化が進んだことで、アイデアを持っている人が自分の知恵と創造力を持って新しいものを作れる環境ができたこと、文明という形でインターネットを考えると、インターネットを作るとは文明そのものを作ることであり、今の人はプロトコル（技術）を意識しないでインターネットを使い、アプリケーション・データ・サービスを意識した社会が生まれてきたと述べられました。今やインターネット利用者は人類の60%を超え、残りの40%はアジアの人たちで、その人たちが未来をどう作っていくか、新しいテクノロジーが切り開いていく未来に関わりたいと述べて講演を終えました。ストーンブレイカー博士は、来日がかなわなかったため、講演のビデオを上映しました。そのなかで、リレーショナルデータベースが成功したわけと博士の貢献について、取り組んだデータベースプロジェクトを取り上げて話されました。最後に受賞者に盛大な拍手を送り、閉会となりました。

#### 関連 URL

C&C賞受賞者の詳細な情報につきましては、以下のNEC C&C財団ホームページをご覧ください

<https://www.candc.or.jp/kensyo/2020/ceremony.html>

#### ■ 公益財団法人 NEC C&C財団について ■

NEC C&C財団は、C&C技術分野、すなわち情報処理技術、通信技術、電子デバイス技術及びこれらの融合する技術分野における開拓又は研究に対する奨励及び助成活動を通じて、世界のエレクトロニクス産業の一層の発展を図り、経済社会の進展

と社会生活の向上に寄与することを目的としています。1985年3月に設立された財団法人であり、その基金はNECからの寄付金に依っています。

この目的を果たすための活動として、現在、顕彰事業及び研究助成事業を行っています。

顕彰事業としては、「C&C賞」に加え、本財団の国際会議論文発表者助成を受けて海外で発表された論文のなかから、毎年おおむね3件以内の優秀論文に対して「C&C 若手優秀論文賞」と賞金を授与しています。

研究助成事業としては、日本在住の大学院所属の学生で、海外で開催される国際会議で論文発表などをされる方々への会議参加費用の助成とともに、日本の大学院に滞在中の外国人研究員に対する研究費用助成を行っています。

# NEC 技報のご案内

NEC 技報の論文をご覧いただきありがとうございます。  
ご興味がありましたら、関連する他の論文もご一読ください。

NEC技報WEBサイトはこちら

NEC技報 (日本語)

NEC Technical Journal (英語)

## Vol.74 No.1 安全・安心・公平・効率を提供する社会インフラ特集

安全・安心・公平・効率を提供する社会インフラ特集よせて  
社会インフラを通じて、すべての人が豊かさを受用できる社会の実現を目指すNECの取り組みについて

### ◇ 特集論文

#### 社会システムのDXを実現する技術 ～ 政府・行政サービスのDX

デジタル・ガバメントを推進する、これからのクラウド活用  
自治体DXに向けた取り組み  
音声の可視化による学びの改革 協働学習支援ソリューション

#### 社会システムのDXを実現する技術 ～ 放送システムのDX

映像流通DXが目指す新たな社会インフラ「映像プラットフォームサービス」  
未来の放送業界のDXを支える映像符号化技術

#### 社会システムのDXを実現する技術 ～ 空港のDX

空港の税関検査場の混雑緩和とスムーズな手続を実現する税関検査場電子申告ゲート  
顔認証を活用した新しい搭乗手続き「Face Express」(成田国際空港「One ID」)  
GPSを利用した航空機進入着陸システム(GBAS)の開発  
次世代に向けた航空交通管理への取り組み

#### 社会システムを支えるセンシング技術 ～ 見えないところで活躍するセンシング技術

気候変動観測衛星(しきさい)を支えた光学センサ技術と成果  
宇宙から見守るまちの安全・安心 ～ 衛星搭載合成開口レーダ活用サービス～  
ミュオグラフィを活用した内部構造の観測  
海中の音波をあやつる可変深度ソナー  
マスト中段配置型艦船用TACAN(電波灯台)アンテナの開発  
画像解析を活用して鉄道の沿線検査業務を支援する「列車巡視支援システム」

#### 社会システムを支えるセンシング技術 ～ 検知と認識のセンシング技術

電波識別技術の現状と将来  
ディープラーニング技術を用いた指紋照合技術の現状と将来  
顔の三次元情報の計測と顔画像照合への応用  
インビジブルセンシング技術によるウォークスルーセキュリティ検査

#### 未来の社会を支える最先端技術 ～ 社会に浸透してゆく先端技術

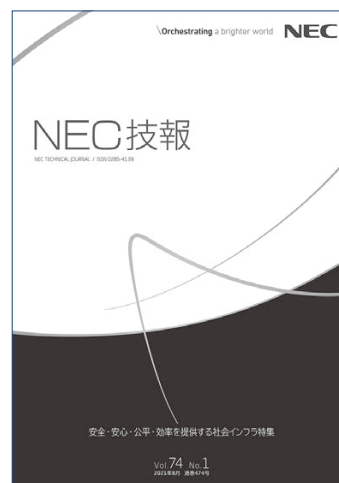
ソフトウェア無線技術のその発展と取り組み  
人工衛星運用における自動化・省力化技術  
光が導く次世代の暗号技術「量子暗号」  
重作業の省人化・無人化を実現するロボティクス技術  
海中の無人機に効率良く大電力を伝送できるワイヤレス給電アンテナの開発

#### 未来の社会を支える最先端技術 ～ 宇宙で活躍する先端技術

はやぶさ2 イオンエンジンと今後の展望  
はやぶさ2 リュウグウへの高精度タッチダウンを実現した自律航法誘導制御  
はやぶさ2の快挙をセンシング技術で支えた「衛星搭載ライダー」  
はやぶさ2 システム設計と運用結果  
高速・大容量のデータ通信を実現する光衛星間通信技術  
美笹深宇宙探査用地上局向け30kW級X帯固体電力増幅装置の開発  
世界最高性能の薄膜太陽電池パドルの開発

### ◇ NEC Information

2020年度C&C賞表彰式典開催



Vol.74 No.1  
(2021年8月)

特集TOP